

指導の基本方針

1. 個々に目を向けた指導を！

『ゴールデンエイジ』という言葉を知っていますか？

9～12、13歳の年代は脳皮質の神経細胞の配線がほぼ終了する時期で、運動系の発達のクライマックス、そして最適の学習期と位置付けられています。

つまり、サッカーでいえばボールコントロールやドリブルなどの個人技術を素早く習得できる「即座の習得」の可能な時期と言えます。

サッカーの世界では、この時期を『ゴールデンエイジ』と呼び、非常に大切にしています。

「シーガル」ではこれを重要視し、小学3年生から中学1、2年生までのトレーニングをより個々に向けたものに行っています。

(個人差あり、中学1、2年生でもまだゴールデンエイジの子供がいるため)

ゴールデンエイジを有効に過ごすためには、それ以前の年代(プレゴールデンエイジ)が重要な鍵を握っています。

「即座の習得」の前提条件となるのは、幼児から低学年までの間に豊富な運動経験を持ち、見た運動に共感する能力が発達していることとされています。

この年代の子どもたちには、サッカー以外にも手でボールを扱うゲームや、時にはボールなしでのゲームなども取り入れ、さまざまな動きを経験させ、体を動かす楽しさを知ってもらいます。

また、中学生の年代は骨格の成長が支点と力点の距離を狂わせ、今まで出来ていた技術が一時的に出来なくなってしまう『クラムジー』の時期がおとずれます。

ゴールデンエイジの子供とクラムジーの子供が混在するこの年代のトレーニングは、出来るだけ個々に目を向けた指導が望ましいといえます。

<例：ドリブル練習の場合>

ある子にはスピードを要求し、別の子には正確なボールタッチを要求する

チームの勝利を優先したり、1学年の人数が多すぎると、こうした指導は非常にに行いにくくなります。

2. 人間性を高めよう！

サッカーの技術が上手なだけでは立派なプレイヤーとは言えません。「シーガル」では、サッカーの技術向上だけを目的としません。生活全般においてルールやマナーを大切にする心を培っていきたくと思います。日頃からそれらが備わっていない者は、サッカーのときだけ立派に振る舞えるものではありません。

『サッカーは子供を大人にし、大人を紳士にする』とされています。

将来、魅力ある人間(大人)に成長するために、サッカーを通してスポーツの楽しさを体験し、苦しさ立ち向かうたくましさを培いましょう。

3. 心と身体のケアを！

従来多くの指導者たちは、どうしても試合に勝つことや技術指導だけを中心に考えがちでしたが、特に“思春期”と呼ばれる時期では、メンタルな部分での配慮は欠かせません。

「シーガル」では日頃の対話はもとより、ミーティング等の中から、子供たちの心をフォローして参ります。

また、各種講習会・勉強会への参加等により、指導者がケガの処置等に細心の注意を払うよう努力しています。

4. 将来の選択肢を！

将来は、プロへ！ あるいは日本代表へ！ という夢を抱いている子供も少なくありません。もちろん我々指導者も、その子供たちの夢実現に向けて努力を怠りません。

しかしながら現実的には、多くのサッカー人口の中で、プロとなって活躍できる人の数はほんのわずかです。

将来のサッカーへの関わり方にもいくつかの選択肢があった方が良いでしょう。

例えば、指導者・審判・協会の役員・サポーター、そしてアマチュアチームでの生涯現役プレイヤーなど……

我々指導者は上記の様々な可能性を見据えながら、子供たちが自分の意思・判断で一番自分に合った道を選択できるように育てていきたいと考えています。

5. 公平にチャンスを！

練習が一番好きだと言う子供はいません。やはり誰もが試合に出たくて、試合を楽しみたくて、ゴールをゲットする喜びを味わいたくてグラウンドにやってくるのです。

「シーガル」では、能力の差で分け隔てをせずに、頑張っている子供全員に試合に出るチャンスを与えます。

6. 本来の「コーチング」を！

コーチングとは、「出来ないことを出来るようにすること」です。

「シーガル」は、セレクション(選手選考会)を行いません。

上手な選手ばかり集めて強いチームを作るのは誰にでも出来ることです。

我々は、本当にサッカーが好きで、純粋にもっと上手になりたいと思っている子供たちに、適切な指導とチャンスを与えてあげるのが本来の務めだと思っています。

現段階の技術レベルよりも、『いかに本人がサッカーを好きで、上手になりたいという強い意欲があるかどうか』で判断したいと思っております。